

2023年(令和5年)  
5/13(土)  
May  
No.615

# こども 新聞でまなぶ WEEKLY ライオン

発行所 中日新聞社  
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号  
〒460-8511 電話 052(201)8811  
定価 月550円(本体価格500円)  
1部150円(消費税50円)  
購読申し込み 0120-454010



メインキャラクター  
まなぶ  
©中日新聞社

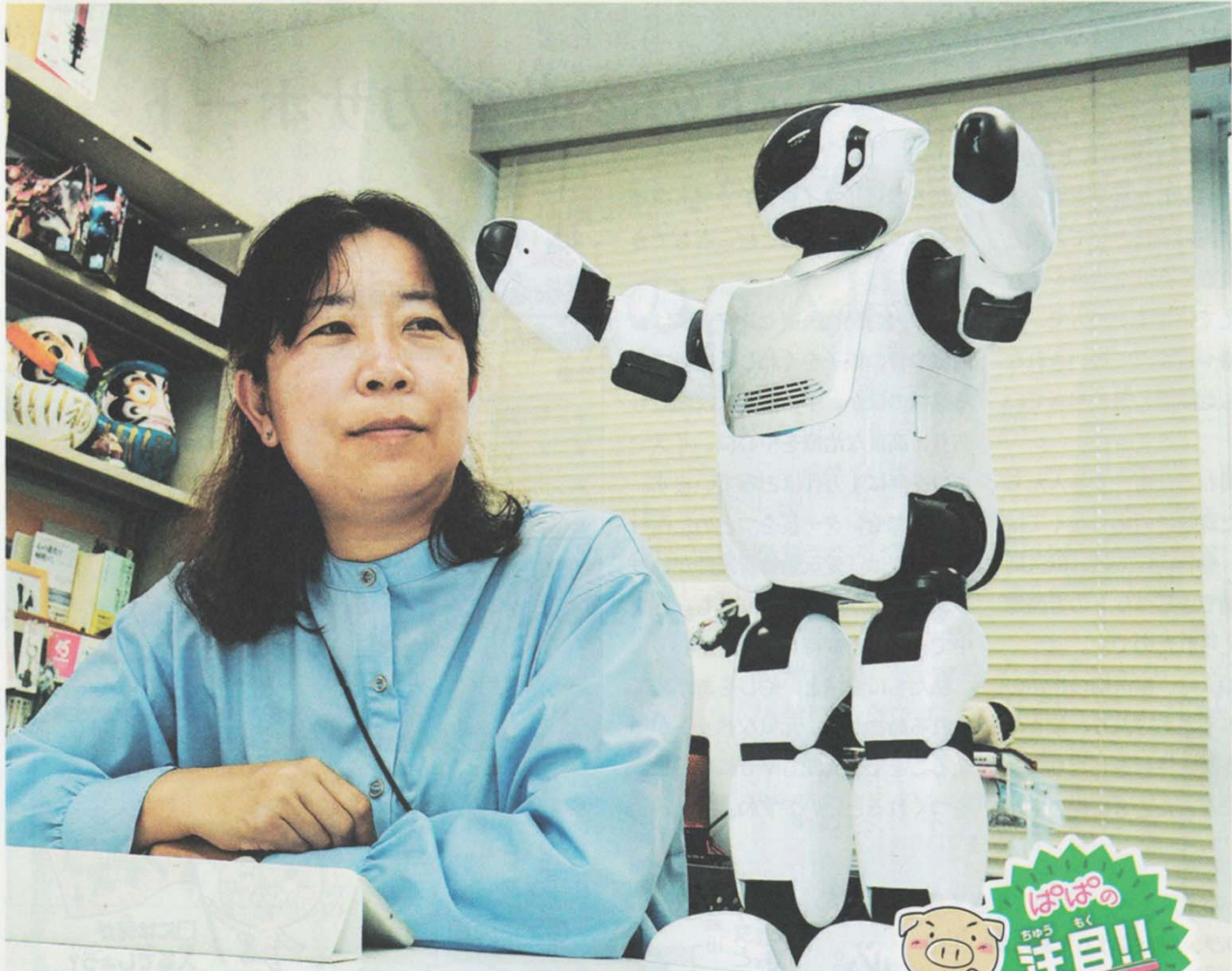


WEBSITE  
中日こどもで検索



4910855161336 00136

https://www.chunichi.co.jp/wadai/kodomo\_weekly



## 方言ロボ フレンドリー



「PALRO」が三河  
弁を話す動画はこちら

尾関さんに三河弁で話し掛けるロボット「PALRO」=愛知県蒲郡市の愛知工科大で

「お魚さんを見なければ、竹島水族館だよね」。小さなロボットが、愛知県蒲郡市の名物を教えてくれました。しゃべっているのは、地元の方言「三河弁」です。ここは蒲郡市にある愛知工科大の尾関智恵教授の研究室。どんなロボットなら人間が親しみを感じることができるかを研究しています。しゃべるロボットは、観光案内所で案内をしたり、福祉施設でお年寄りの話し相手になったりと、活躍の場が増えています。そこで話す言葉が方言だったら、聞く人はどんな感じがするでしょう？岐阜大の毛利哲也教授と共同で富士ソフト社の「PALRO」に三河弁をしゃべらせる実験をしたところ、多くの人は悪い印象を持たないと分かりました。こうした研究が積み重なれば、介護を受けるお年寄りがロボットと心を通わせるやすくなったり、方言になじみのない人が会話を練習できたりするかもしれません。尾関さんは「インターネットで世界中がつながるようになったからこそ、方言という自分のルーツを知り、誇りを持つことが大事になっていくのでは」と話します。方言って、面白そうじゃん。詳しくは6、7面を読んでみりん。